



国民の祝日「山の日」

平成28年1月1日に国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第43号）が施行され、今年から8月11日が国民の祝日「山の日」となりました。

日本は国土の7割近くを山地が占める山の国です。日本人は、古くから山に畏敬の念を抱き、森林の恵みに感謝し、自然とともに生きてきました。山の恵みは清流を生み、田畑を潤して我が国を囲む海へと流れ、深く日常生活と関わりながら、豊かな心も育んできたことから、「山の日」は国民の祝日に関する法律の第2条で『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。』と明記されています。

ニセコ連峰に囲まれ、羊蹄山の麓に住む私たち倶知安町民にとっても新しい祝日「山の日」の制定は、日常に当たり前の風景としてある山や自然について、改めて考え、感謝し、そしてこれまで以上に親しむための良ききっかけになるのではないのでしょうか。

倶知安の山々

私たちは、富士山に似た姿から蝦夷富士とも呼ばれる羊蹄山とニセコアンヌプリを主峰とす

るニセコ連峰に囲まれ暮らしています。ご家庭や職場、学校から、また、通勤や通学時、日常生活の中でその姿を常にご覧になっているのではないのでしょうか。

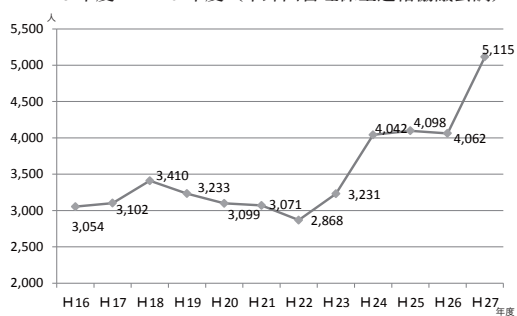
【羊蹄山】

羊蹄山は、支笏洞爺国立公園に属しており、その雄大な姿はもちろん、登山コースとしても古くから人々を惹きつけており、江戸期から、様々な文献の中で登山の記録が残されています。現在、羊蹄山を訪れる登山客の数は、日本百名山や、近年の登山ブーム・健康志向などの影響もあり、年々増加しています。

また羊蹄山には、避難小屋があり、3ページで取材をした近藤英輝さんは、ここで管理人をしています。

※小屋の利用について詳しくは町観光課 ☎23—3388

倶知安コースからの羊蹄山登山者数の推移
H 16 年度～H 27 年度（羊蹄山管理保全連絡協議会調）



【イワオヌプリ・ニセコアンヌプリ】

ニセコ山系はニセコ積丹小樽海岸国定公園に属しており、イワオヌプリ、ワイスホルン、チセヌプリ、岩内岳、目国内岳、雷電山他の山々で構成されています。中でも主峰であるニセコアンヌプリとイワオヌプリは、倶知安町のこれまでの歴史の中で非常に重要な役割を果たしてきました。

イワオヌプリについては、9ページに掲載のくっちゃんワンダーキッズの記事で触れていますが、明治から昭和の初めにかけて硫黄採掘が盛んに行われ、最盛期には200人以上がそこに住み、地域経済を支える存在でした。

イワオヌプリの硫黄採掘量が減少し始め、閉山を迎えてから二十数年後、ニセコアンヌプリにスキーリフトがかかり、現在に続くスキーリゾートとしてのニセコの歴史が始まります。

また、このニセコアンヌプリでは、太平洋戦争中に軍用機の



▲イワオヌプリ



▲尻別川とニセコアンヌプリ

山の白

新しい国民の祝日

着氷実験が行われていました。現在この機体については、主翼の一部を回収し、倶知安風土館に運び込まれ、一般公開されていますので興味のある方はぜひご覧になってください。

【ワイスホルン】

雪解け時期には斜面に白い馬の形が浮かび上がるワイスホルン。この白馬の姿を見て倶知安の春の訪れを感じるといいう方も多いのではないのでしょうか。

山の恩恵を考える

尻別川をはじめとした大小さまざまな河川や、息をのむような美しさを見せる湖沼。今も昔も多くの観光客をひきつける温泉。そしてこの地を世界有数のリゾートに押し上げた大きな要素であるパウダースノー。これらすべては常に羊蹄山やニセコの山々とともにあり、その恩恵は観光業や農業はもちろん、私たちの暮らしの多くの部分に注がれています。

私たちが様々な形でうけている恩恵の中でも、身近なもののひとつが水ではないでしょうか。私たちが毎日当たり前に使用している水道水は、冬の間に降り積もる雪が、羊蹄山という巨大な濾過機を通して、その間にミネラルや炭酸ガスなどを適度

ニセコアンヌプリに登ってきました!!

装備を確認し、入山届に記帳をしたら登山のスタートです。しばらくは樹林に囲まれた中を歩きます。日光が木の葉に遮られ涼しく動きやすいのですが、足元は少しぬかるんで、滑りやすくなっていました。

ニセコアンヌプリの登山道には「頂上まであと〇〇m」と書かれた看板が立っており、初めてこの山に登る人でもペース配分がしやすく、また登山道の途中、道が少し崩れているところには、ピンク色のテープが谷側に張られていました。このように危険な個所にはピンク色のテープがついていることが多いので、注意して歩くとよいでしょう。

「頂上まであと500m」の看板を過ぎると山頂に続く登山道が見えてきます。この時期は道の脇にエゾゼンテイカの花畑を見ることがができます。街の中ではなかなか見る事のできない高山の植物に出会えるのも、登山の楽しみのひとつですね。

この日は好天に恵まれ、お昼時を迎えた山頂には10数組が食事をとったり、写真を撮ったりしながら思い思いの時間を過ごしていました。友人同士3人で初めての登山だったという札幌の方は「途中はつらかったですけど、この景色を見たら、疲れも吹き飛びました!夏の良い思い出ですね」と、とても満足げな表情で話していました。

屋外での活動が気持ちの良い季節を迎えています。山での事故などには十分注意して、家族や友人と素敵な思い出作りをしませんか。



▲登山道の看板



▲エゾゼンテイカ



▲ニセコアンヌプリ山頂



▲山頂から望む景色

で、その過程は50年以上と言われている。この水こそ私たちが生きていく上で欠かすことのできないものです。

この町で暮らしていく上で、忘れてはいけない山の恩恵を、あらためて見つめ直してみませんか。